Hirosaki MOCA Letter

vol.05

TAKE FREE

弘前れんが倉庫通信

弘前れんが倉庫美術館をもっと楽しむフリーペーパー

特集：建築家 田根剛さんに聞く“記憶を継承する建築”

日の光が届かない、奥へと続く廊下にこだまする「おはようございます」の声。
等間隔に続く縞模様の影が、時間の経過を知らせることはないけれど、
いつしかそこでは、「お疲れ様でした」の声が行き交ったことだろう。
煉瓦の壁に手をおくと、「また明日」が残響となって返ってくる気がする。
遠い過去の記憶が、今日の体をゆっくりと満たしていく。

特集
FEATURE

建築家 田根剛さんに聞く “記憶を継承する建築”

弘前れんが倉庫美術館は、グランドオープンから2周年を迎えました。
今回は、当館の建築設計を手がけた建築家の田根剛さんを特集！
美術館の設計や、刊行したばかりの書籍に込めた思いについて聞きました。

『弘前れんが倉庫美術館 －記憶を継承する建築－』

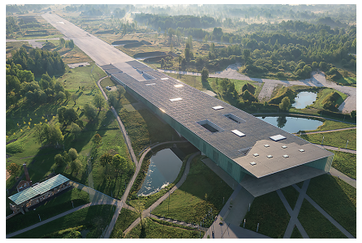
イベントレポート　田根剛さん・美術館設計への思い

2022年7月16日、『弘前れんが倉庫美術館 －記憶を継承する建築－』刊行記念トークイベントを開催しました。トークイベントには、本の著者で、弘前れんが倉庫美術館の建築設計を手掛けた田根剛さんが出演。美術館完成までのエピソードや、建築の手法、思いなどを語り、地元弘前の方や、建築を学ぶ青森県外の学生など、約70人が話に耳を傾けました。

話題の中心となったのは、場所の記憶から未来を発想する「考古学的アプローチ」という田根さんの手法。建物を設計しようとする場の背景にある歴史や積み重ねられてきた事象を考古学のように発掘しつつ、自由な想像力によって補い、建築の指針としていく、という作業です。美術館の前身である煉瓦倉庫が日本初のシードル工場であったことを知り、また倉庫を建設した実業家・福島藤助の「たとえ事業に失敗しても、建物を市の将来のために遺産として遺すことができる」という志に感銘を受けた田根さんは、そうした歴史や記憶の「継承」を美術館のコンセプトに据え、それに基づいた建築へのアプローチを行ったといいます。

さらに田根さんは、建物を新たなものに作り替える「改築」ではなく、先人たちが積み上げてきた100年を受け継ぐ「延築」という考え方に基づいて美術館の建築を手掛けました。古くなった建物が壊され、建て替えられ、すぐに忘れ去られていく昨今。しかし、この美術館は、延築することで、記憶を未来へとつなげていけるのでは、と考えたそうです。

トークの最後、田根さんは参加者に向け「美術館に何度も足を運んでほしい。足を運び、つまらなかった、面白かったと自由に感じながら、美術館とコミュニケーションをとってほしい。そうすることで、建物はさらに育っていく」と語りました。こうしたコメントからは、田根さんが、過去と現在のみならず、未来をも見据えた大きな視点で設計を行っていたことが伝わってきました。

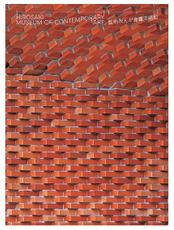

エストニア国立博物館
Photo：Propapanda / image courtesy of DGT.

帝国ホテル 東京 新本館イメージパース
Image：Atelier Tsuyoshi Tane Architects

トークイベントの様子
（撮影・成田写真事務所）

トークの終了後には田根さんのサイン会が行われました。
（撮影・成田写真事務所）

美術館の本ができました！


本の表紙はエントランスの
「弘前積みレンガ工法」。

「記憶を継承する建築」はどのように行われたのか、本書では、その全貌を明らかにします。弘前の歴史、煉瓦倉庫の変遷、考古学的なリサーチから導きだされた建築のコンセプト。既存の建物を解体・分析して修復する壮絶な現場の記録。そして完成後の美術館と弘前の風景まで紹介していきます。

本の中をのぞいてみると…
↓

写真家の畠山直哉さんが撮影した
改修前の煉瓦倉庫の姿も。

設計のためのリサーチで集められた資料も
多数掲載。

（撮影・成田写真事務所）

INTERVIEW

書籍の発刊に寄せて

田根剛さんへのインタビュー

『弘前れんが倉庫美術館 －記憶を継承する建築－』は、情報や書籍のデジタル化が進む中、「物－モノ」としての「本」を作りたいと思い制作しました。過去にも作品集を出版したことはありましたが、ひとつの建築をテーマに、これほど編集やデザインに深く関わった本は今回が初めてです。
本の内容は、建築のみを紹介するのではなく、開館以前から続く弘前の歴史や煉瓦倉庫の変遷、福島藤助の志、りんごやシードルなど「場所の記憶」を盛り込み、また、設計者にしか書き得ない、美術館完成までの過程や現場の記録をまとめた美術館の軌跡にしたいと考えました。そして、何より、これまで煉瓦倉庫を大切にしてきた方達と、これかられんが倉庫美術館を大切にしてくれる方たちに向けた弘前の為の本にしたいと思いました。文章に加えて、冒頭での煉瓦倉庫時の畠山直哉さんの写真や昼夜問わず四季折々に表情を変える「美術館」と「人」の風景を捉えた木寺紀雄さんの写真は、倉庫だった時代から美術館への改修を経て現在に至るまでの経緯をたくさんの方々と共有し、未来へと伝える一冊になったのではないかと思います。
弘前れんが倉庫美術館は、煉瓦倉庫としての歴史や文化を引き継ぎ、弘前の土壌に根差した美術館であるとと同時に、弘前の方にとって、世界に開かれた新たな出会いをもたらす場になってほしいと考えています。訪れた方々がアートや人と出会い、それをきっかけに弘前のまちを作り、次の時代を生み出していく。そんな美術館になることを期待しています。（談）

田根剛（たね・つよし）

1979年、東京都生まれ、パリ在住。Atelier Tsuyoshi Tane Architectsを設立、フランス・パリを拠点に活動。場所の記憶から建築をつくる「Archaeology of the Future」をコンセプトに、現在ヨーロッパと日本を中心に世界各地で多数のプロジェクトが進行中。主な作品に『エストニア国立博物館』（2016）、『弘前れんが倉庫美術館』（2020）、『アルサーニ・コレクション財団・美術館』（2021）、『帝国ホテル 東京・新本館』（2036年完成予定）など多数。

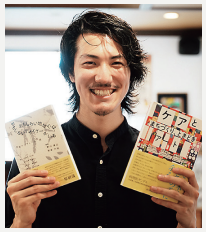
弘前れんが倉庫美術館の
ミュージアムショップや
全国書店で購入できます。

ミュージアムショップの店頭には
サンプルも置いてありますので、
ぜひお手にとってご覧ください。

書　名　『弘前れんが倉庫美術館 －記憶を継承する建築－』
著　者　田根剛（Atelier Tsuyoshi Tane Architects）＋弘前れんが倉庫美術館
発売日　2022年7月14日
発　売　株式会社パイインターナショナル
定　価　3,960円（税込）
体　裁　256ページ（オールカラー）、B5判変形（240mm×175mm）

PICK UP! PEOPLE

美術館とまちをつなぐ
わたし・アート・まち



地域と医療をつなぐ「本」との出会い

医Café SUP? 店長　米谷 隆佑さん

「病院に行く一歩手前で、カジュアルに健康・医療について話せる場を作りたい」。そうした思いから、2021年に弘前大学医学部の学生有志で“医Café SUP?”をオープンさせました。私も創設メンバーの一人で、現在店長を務めています。

私には、医カフェを続ける上で支えになっている本がいくつかあります。そのうちの一冊が、内科医ウィリアム・オスラー著『平静の心』。大学2年生の時、この本の中の「医療は科学に基づくアートである」という言葉に出会い、医療の人間的な側面や、患者の感性や気持ちを感じ取ることの重要性を感じました。また、最近読んだ本では、新山直広・坂本大祐編著『おもしろい地域には、おもしろいデザイナーがいる 地域×デザインの実践』と西智弘・守本陽一・藤岡聡子著『ケアとまちづくり、ときどきアート』。

特に、『ケアとまちづくり、ときどきアート』は、医療とまちづくりの関わりの重要性が書かれており、医カフェのコンセプトの参考ともなっています。

これらの本からは、アートやまちづくりへの意識を持って医療を行う大切さを学びました。今後も地域と医療の架け橋となる医カフェの活動を続けていきたいと思います。（談）

【医Café SUP?】イカフェ サップ
医学生が経営する、気軽に健康・医療相談ができるカフェ。学習参考書や医学書、漫画を並べた本棚や、学習スペースもある。

弘前市親方町29-4 親方町阿部店舗2F
時間：10:00-16:00
不定休
Instagram @icafe_sup

聞き手・佐藤あい佳（タウン誌編集者）　撮影・成田写真事務所

STAFF VOICE

美術館のおしごとアレコレ
スタッフに聞きました！

弘前れんが倉庫美術館 Members #05

アシスタント・キュレーター　佐々木 蓉子

大学で芸術学を学び、弘前れんが倉庫美術館の開館から学芸チームに加わった佐々木さん。展覧会の企画、進行管理や、企画展のブックレットの編集など、いわばアーティストと鑑賞者をつなぐ役割を担ってきました。

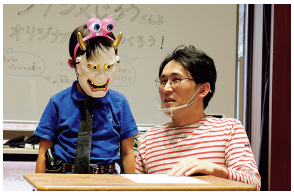
常に意識しているのは、「作品の解釈に正解はない」ということ。鑑賞者にとって、キャプションなどは作品を知る大切な手がかりとなりますが、固定的な解釈を押し付けないよう心がけているといいます。「物事の見え方は、一つではありません。同じものや風景を見ていても、アーティストによって見方が違うということを、この仕事を通じて感じてきました。自分に見えている世界が全てではないと思うことで、私自身、気持ちが楽になり、希望を見出してきました。こうした思いを、展示を見に来た方とも共有していきたいです」と話す佐々木さん。アーティストと作品に向き合い、ひたむきに日々の仕事に打ち込んでいます。

取材＆文・佐藤あい佳（タウン誌編集者）　撮影・成田写真事務所

Exhibition information　展覧会情報

2022年度 秋冬プログラム
「もしもし、奈良さんの展覧会はできませんか？」
奈良美智展弘前 2002-2006 ドキュメント展
会期：2022年9月17日～2023年3月21日

Event report　イベント報告



H-MOCAライブ Vol.9 ワークショップ
「シソンヌ じろうさんとオリジナルキャラをつくろう！」
実施日：2022年5月28日

参加者たち自身が「なりたい」と思うキャラクターを作り、その姿に変身。じろうさんとともに人物像を練り上げ、最後に動画を撮影しました。子どもたちの真剣な姿から演じることの楽しさが伝わってきました。

＼Join us／

募集中！ H-MOCAメンバーズ

弘前れんが倉庫美術館を支援するメンバーシッププログラムの会員を募集しています。スタジオやカフェの割引、内覧会へのご招待などさまざまな特典もあります。美術館をもっと身近に感じてみませんか？

▲ 詳細はこちら

HIROSAKI MUSEUM OF CONTEMPORARY ART

弘前れんが倉庫美術館
［開館時間］9：00～17：00　※但し、金曜日・土曜日に限りスタジオ、ライブラリーのみ21：00まで開館
［休館日］火曜日（祝日の場合は翌日に振替）、年末年始
〒036-8188 青森県弘前市吉野町2-1　［TEL］0172-32-8950　［Mail］info@hirosaki-moca.jp
［駐車場］思いやり駐車場2台　※お車でお越しの際は近隣の有料駐車場をご利用ください

［表紙写真］改修前の煉瓦倉庫撮影：畠山直哉
［編集協力］ものの芽舎　［デザイン］デザイン工房エスパス　［印刷］凸版メディア株式会社
［編集・発行］弘前れんが倉庫美術館（指定管理者 運営業務担当　エヌ・アンド・エー株式会社）　［発行日］2022年9月17日